

看 護

1 学習指導と評価の工夫・改善

看護科では、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の確実な定着はもとより、看護職者として常に自覚と責任を持って行動できる力の育成を図り、国民の健康の保持増進に寄与するための能力と態度の育成を重視した学習指導を行うことが求められている。

こうした学習指導を効果的に行うためには、目標に準拠した評価の一層の改善を図るとともに、計画、実践、評価、改善という一連の繰り返しを重視することが大切であり、評価の結果を受けてその後の指導を工夫・改善するといった、指導と評価の一体化を図ることが大切である。指導と評価の一体化を実現するためには、それぞれの単元の目標や生徒の実態を踏まえた評価規準や評価の方法を決定するとともに、單元ごとに重視する評価の観点を明確にするなど、適切な指導計画と評価計画を作成することが重要である。

2 評価方法の改善・充実

(1) 評価計画表の作成

ア 作成上の留意点

- 学習指導要領に示す教科・科目の目標や内容に基づき、内容のまとまりごとの指導と評価の計画を作成し、学習活動における具体の評価規準を設定する。
- 評価規準は学習の実現状況が「おおむね満足できると判断される」状況（B）について設定する。
- 評価計画の作成に当たっては、評価の客観性や信頼性のある評価をするために、どの場面で、どの評価方法を用いるのかを工夫する。
- 毎時間の授業において、4つの観点をすべて入れる必要はないが、内容のまとまりごとには、4つの観点がすべて入っているように策定する。また、授業における観点別評価については、毎時間の評価をすべて評定に総括する必要はない。
- 「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の評価の観点をバランス良く取り入れ、総合的に評価を行い、さらにその結果を踏まえながら総括的に評定を行うよう配慮する。
- 基礎看護においては、原則として学習指導要領の内容の中項目を内容のまとまりとする。ただし「(2) 日常生活と看護」の「イ」～「キ」（食事、排泄、姿勢・体位と運動、睡眠と休息、身体の清潔、衣生活）については、これらの項目が、人間の基本的欲求に伴う日常生活行動のうち、特に生理的欲求を満たすためのものであり、評価規準は共通して表すことも可能である。

イ 評価計画表の例

科目「基礎看護」(3) 診療と看護 ア体温、脈拍、呼吸、血圧の観察の評価計画表を次に例示する。評価方法は特に重要であると考えられるものを挙げた。

科目名「基礎看護」単元名「(3) 診療と看護 ア 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察」

科目名 (履修学年・単位数)	基礎看護 (1 学年・5 単位)				
単元名	(3) 診療と看護 ア 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察				
単元の目標	1 体温、脈拍、呼吸、血圧を観察することの意義と重要性を理解させる。 2 体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子やそれぞれの測定の原理、患者の諸条件及び器具の操作と手順について学習させ、正確に測定する技術を習得させる。 3 測定結果の正常と異常を判断し、適切に記録・報告を行うことができるようにさせる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
内容の まとめごとの 評価規準 (「基礎看護」の 内容(3)診療と看護 の中項目ア「体温、 脈拍、呼吸、血圧 の観察」の評価規 準)	体温、脈拍、呼吸、血圧及びそれらに影響を与える因子について関心を持ち、正確な測定技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	体温、脈拍、呼吸、血圧を観察することの意義と重要性について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、測定結果の正常と異常を適切に判断することができる。	体温、脈拍、呼吸、血圧測定の基礎的・基本的な技術を身に付け、正確に測定することができる。	体温調節の仕組み、心臓と血管の働き、呼吸運動と呼吸の生理についての基礎的・基本的な知識を身に付け、体温、脈拍、呼吸、血圧を観察することの意義と重要性を理解している。	
評価規準の 具体例 (中項目ア「体温、 脈拍、呼吸、血圧 の観察」の評価規 準の具体例)	・体温、脈拍、呼吸、血圧の生理、その影響因子について関心を持っている。 ・体温、脈拍、呼吸、血圧の正確な測定技術の習得に意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	・体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子について思考を深め、影響を最小にするような測定方法を創意工夫することができる。 ・患者の状態を把握する上での体温、脈拍、呼吸、血圧を測定する意義や重要性について思考を深めることができる。 ・各正常範囲を基に測定結果の正常と異常を適切に判断することができる。	・体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を及ぼす因子を考慮し、安全安楽を配慮して正確に測定することができる。 ・測定した結果を適切に記録・報告することができる。	・体温調節の仕組み、心臓と血管の働き、呼吸運動と呼吸の生理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・それぞれの測定の原理や患者の諸条件及び器具の操作と手順に関する知識を身に付けている。 ・患者把握を行う上で体温、脈拍、呼吸、血圧を観察する意義と重要性について理解している。	
学習活動における 具体的 評価規準と主な 評価方法	・ 1 時間目 ・ 2 時間目 (2 時間) ◎ 体温、脈拍、呼吸、血圧の生理について	① 体温、脈拍、呼吸、血圧の生理、その影響因子について興味関心を持って参加している。	① 体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子について思考を深め、その因子の影響を最小限にするような測定方法を創意工夫することができる。	(評価規準を設定しない)	① 体温、脈拍、呼吸、血圧の生理に関する基礎的・基本的な知識をワークシートに適切にまとめている。
		ワークシート○ 行動観察◎	ワークシート◎※2 レポート○		小テスト◎ 定期考査◎
	・ 3 時間目 ・ 4 時間目 (2 時間) ◎ 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察の意義について	② グループワークで自分の意見を述べたり考えを提示し、臨床場面を想定した観察の意義を捉えようとしている ③ 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察の意義について関心を持っている。	② 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定が患者の状態を把握する上で重要なことを考え、測定方法を工夫しようとしている。	(評価規準を設定しない)	② 患者把握を行う上で体温、脈拍、呼吸、血圧を観察する意義と重要性について理解している。
		ワークシート○ 行動観察◎※1	ワークシート◎ レポート○		ワークシート○ 定期考査◎
・ 5 時間目 ・ 6 時間目 ・ 7 時間目 ・ 8 時間目 (4 時間) ◎ 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定方法について	④ 体温、脈拍、呼吸、血圧の実技練習や実技テストに積極的に取り組んでいる。 ⑤ 正確な測定技術の習得に意欲的に取り組んでいるか。	③ 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定の正常範囲を基に測定結果の正常と異常を適切に判断することができる。	① 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定を正確に行うことができる。 ② 測定結果を適切に記録し報告することができる。	③ 測定の原理や患者の諸条件及び器具の操作と手順に関する知識を身に付けている。	
	実技テストの観察◎ 実習日誌○	実技テスト◎ 実習日誌◎	実技テスト◎※3 実習日誌◎	実技テスト○	

注1：◎ 単元の評価の総括の資料とする ○ 単元の評価の総括の資料としない

注2：※1～※3の具体例を次に示す

(2) 観点別評価の進め方

ア 考え方

評価を行うに当たっては、設定した評価基準に照らして、まず「おおむね満足できると判断される」状況（B）か、Bに至っていない状況、すなわち「努力を要すると判断される」状況（C）と評価し、適切な指導の手だてを考える必要がある。さらに、状況（B）と評価された生徒の実現の程度が、質的な高まりや深まりをもつと見られるとき、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。

次に、評価（A）の一般的な評価の視点と、評価（C）の生徒への適切な指導の手立て例についてまとめ、記載する。

	「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される一般的な評価の視点	「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への、適切な指導の手だての例
関心 意欲 態度	学んだことをもとに自ら課題を持ち、その解決に向けて意欲的に取り組んだり学習したことをもとに、発展的内容について調べるなど、生徒の主体的な活動や態度が見られる場合。	行動観察やワークシート等のチェックを通して、学習のねらいを確認した上で、何をどのように取り組んだらよいかを具体的に助言する。
思考 判断	新しく学んだことがらを人体の構造と機能等の既習内容と関連付けたり、科学的根拠のもとにより広い視野から発展的考察をすることができている場合。	ワークシート等のチェックを通して、人体の構造と機能について再確認したり、資料を活用したりして科学的視点から創意工夫するための具体的方法を提示する。
技能 表現	基礎的・基本的な技術を正確かつ確実に身に付けるとともに、対象の状態に応じた科学的根拠に基づく援助技術の応用・発展が見られる場合。	評価表等を通じて「努力を要する」と評価された生徒に対しては、技術習得のための補習時間を設け、技術が確実に身に付くように、個別指導を実施する。
知識 理解	基礎的・基本的な知識を確実に見につけるとともに、既習内容と関連付けて、科学的根拠に基づいて、対象の状態に応じた援助の必要性和援助方法が理解できている場合。	ワークシート等のチェックを通して、理解が足りない事項についての補充課題を与えたり、補助プリントを作成し取りませせたりする。また小テストで「努力を要する」状況と評価された生徒には、テスト後、その問題について解説し、類似の問題に取り組ませるなどの指導を行う。

イ 評価方法の具体例

(ア) 行動観察による【関心・意欲・態度】の評価法※1

〔具体の評価規準及び評価の観点〕

「グループワークで自分の意見を述べたり考えを提示し、臨床場面を想定した観察の意義を捉えようとしているか。」

〔評価の方法〕

- ・体温、脈拍、呼吸、血圧の観察の意義について、グループワークを行う。その時間の行動観察をし、その参加状況から関心・意欲・態度を評価する。

[評価の実際]

- ・体温、脈拍、呼吸、血圧の観察の意義について、発言や考えを提示しグループワークに参加している状況にある場合を「B」と評価する。発言や考えの提示がまったくない状況を「C」と評価する。「B」と評価された生徒の実現の程度が、臨床場面を想定した実際の看護活動に結びつくような質的な高まりや深まりをもった発言や考えの提示があった場合を「A」とする。
- ・【関心・意欲・態度】を評価する場合は、複数の評価の機会を設ける。

(イ) ワークシートによる【思考・判断】の評価方法※2

[具体の評価規準及び評価の観点]

「体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子について思考を深め、その因子の影響を最小限にするような測定方法を創意工夫することができるか。」

[評価の方法]

- ・授業中において、体温、脈拍、呼吸、血圧の生理をワークシートにまとめさせ、授業後に提出させたワークシートの記述から点検・分析し、評価する。

[評価の実際]

- ・体温、脈拍、呼吸、血圧に影響を与える因子について、科学的根拠に基づき患者の状況を記述し、さらに影響を最小限にする測定方法の工夫が体温、脈拍、呼吸、血圧それぞれに一つ以上記述されている状況を（B）と評価する。影響を最小限にする測定方法の工夫が一つも記述されていない状況を（C）、影響を最小限にする測定方法の工夫が体温、脈拍、呼吸、血圧それぞれに二つ以上記述されている場合を（A）とする。

〈参考例〉ワークシート

1, 次の項目が体温・脈拍・呼吸・血圧にどのような影響を与えるのか考えなさい。	
項 目	患 者 の 状 態 や 影 響
運 動	体温 -----
	脈拍 -----
	呼吸 -----
	血圧 -----
~~~~~	
体 位	呼吸 -----
	血圧 -----
2, 上記から各測定に当たっての工夫点を考えなさい。	
・体温 ・脈拍 ・呼吸 ・血圧	

(ウ) 実技テストによる【技能・表現】評価方法※3

[具体の評価規準及び評価の観点]

「体温、脈拍、呼吸、血圧について正確に測定・記録することができるか。」

[評価の方法]

実技テストにおいて、チェックリストを活用し測定方法を評価する。

〔評価の実際〕

- ・資格取得との関連を重視し、○が 12 個以上ある状況を（B）とし、11 個以下の状況を（C）とする。16 個以上ある状況を（A）とする。

（参考例）血圧測定チェックリスト表

血圧測定 チェックリスト項目	○	×
1 患者に測定することを説明し、尿意がある場合は排尿させたか。		
2 水銀血圧計と聴診器を用い、少なくとも 10 分以上安静にした後 20～25℃の室温下で測定したか。		
3 患者をいすに座らせ、衣服の緊迫を除いた右上腕を台上に乗せ、手掌を上にして自然に伸展させたか。		
4 測定部位と心臓が同じ高さになっていたか。		
5 成人用マンシェットの中心が、上腕動脈の上で、下縁が肘窩の 2～3 cm 上になる位置で、ややゆるめに（指が 1～2 本入る程度）巻いたか。		
<hr/>		
18 マンシェットは台上に置いて両手で押し、空気残量のないことを確かめてから軽く巻き、マンメータを破損しないように注意深く格納したか。		
19 使用後の聴診器は、チェストピースとイヤープースを消毒綿で拭き、消毒したか。		
20 通常の測定時と異なる体位と上腕で測定した場合は、測定時にあわせてその旨を記録したか。		
合 計		

### (3) 観点別評価の総括

#### ア 総括の方法

単元の観点別評価の総括を行う方法としては、学習活動における具体的評価規準に照らして、学習活動における評価の視点ごとに A、B、C の 3 段階で評価を行い、それを総括して観点ごとに A、B、C の判定をする。

総括する具体的な方法として A、B、C の個数や割合に基づく方法や A、B、C を数値に換算して集計する方法が考えられる。

ここでは内容のまとめりごとの各次程ごとに、学習活動における具体的評価規準により評価を行い、得られた

評価 A、B、C の総数と割合で総括する方法を例（右表）として示す。その際、同一の評価規準による評価が複

表

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| ア | C が一つもなく、A が 6 割以上の場合には A とする |
| イ | C が 4 割以上の場合には C とする          |
| ウ | A、イ以外は B とする                  |

数の次程において得られる場合があるが、評価機会ごとに得られた評価のすべてを同じ重みとして、次の考え方により総括する。

この教科は人々の健康、人々の生命に関する内容を扱うものであり、様々な対象者に対し一人一人に対応できる知識と高度な看護技術を習得し、さらに看護職の基盤である看護観や職業観及び生命に関する倫理観を育成し、自ら判断し行動できる力を育成するものである。このような教科の特性から、それぞれの観点別評価を A と判断するには C が一つもないことや、評価個数全体に対する A の割合を 6 割以上と判断する

ことが妥当であると考えた。また、評価個数全体に対するCの割合が4割を超える場合には、たとえ他のすべてがAと評価されたとしても、評価の総括はCと判断することも同様に妥当であると考えた。

次に、単元における観点別評価の総括例を示す。

イ 観点別評価の総括例（生徒Aさんの場合）

観点	学習内容			Aの数	Bの数	Cの数	総括
	体温,呼吸,脈拍, 血圧の生理	体温,呼吸,脈拍, 血圧の観察意義	体温,呼吸,脈拍, 血圧の測定方法				
関心・意欲・態度	A A	A A	B A	5	1	0	A
思考・判断	A	A	B A	3	1	0	A
技能・表現			A A B	2	1	0	A
知識・理解	A B	B		1	2	0	B

この他にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

ウ 評定への総括方法

各単元ごとの観点別学習状況の評価から学年末の観点別学習状況を出し、学年末の評定に総括する方法については、例えば「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」のそれぞれが「A、A、A、A」であれば「5」、「B、B、B、B」であれば「3」とする方法のほか、(A) (B) (C) を点数化した後に「満点の〇〇%以上は5とする」など、様々な方法が考えられ、各学校において適切な方法を定めておくことが必要である。

各単元ごとの評価において「努力を要すると判断される」状況 (C) と評価された生徒に対しては適切な指導の手だてを実施するとともに、生徒の状況に応じた評価の修正を行う必要がある。そのために、日頃の授業において、生徒の長所や変容等についてできるだけ多くメモができる補助簿等を有効に活用することが大切である。

(参考例) 補助簿（生徒B子さんの場合）

科目 (基礎看護)	看護の 対象の 理解	看護の 意義	看護活動の 分野	病環境の 調整	食事	排泄	姿勢・体位と 運動	睡眠と 休息	身体 の清潔	衣生活	看護体験 パートI	体温・脈拍・呼吸・ 血圧の観察	診療・検査と 看護	与薬	包帯法	電法	褥瘡の 予防と 手当て	無菌法と 院内感染の 予防	看護体験 パートII	学年	学年末 評価
																				観点別 評価	
< 観 点 >																					
関心・意欲・態度	B	B	A	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	B	A	B	A	B	A	B	3
思考・判断	A	B	B	B	B	A	A	A	B	B	A	A	B	B	A	A	B	B	B	B	
技能・表現	B	B	B	A	A	A	B	A	B	A	A	A	B	B	A	A	B	B	B	B	
知識・理解	B	B	A	B	A	B	B	A	B	B	A	B	A	B	A	B	B	A	A	B	

